
パオーン

高野敢太

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パオーン

【Nコード】
N6864A

【作者名】
高野敢太

【あらすじ】
授業中に少年長谷川に起きたことは……………。

(前書き)

ある塾の授業中に・・・。

中学生の長谷川君はいつもジャージをはいている。
スポーツ少年でもないし、おしゃれ少年でもない。
と言え、彼のジャージのはきこなしぶりは想像できるだろう。

ある日の授業中、長谷川君が急に立ち上がり、
「イテテテエ」と言いながら、ジャージをはいた下半身をよじり
始めた。

見ていても全然萌えない。むしろ萎える。

「どうしたんだ？いきなり」

「先生、何かいる。ジャージの中に何か虫がいる」

「虫？」

「うん。太もものところ、噛んでる。イテテテ」

「捕ればいいだろう」

「嫌だよ。僕、虫が嫌いなんだよ。触れないよ」

「じゃ、どうするんだよ。このまま噛まれ続けるか？」

「先生捕ってよ」

なんで、俺がお前の下半身の虫を捕らなきゃならないんだよ。
あ、そうだ。この機会にいつもしたいと思っていたことをしてみ
よう。

「わかった。捕ってやるよ」

言つと同時に、彼のジャージのウエスト部分に手をかけ、思いつ
きり下にずらしてやった。

パオーン！

目の前に像さんの鼻が現れた。

パンツにも手がかかっていたようだ。

長谷川君は驚いた後怒り出すし、他の男子は笑うし、女子は悲鳴を上げるし、大変だった。

結局、長谷川君にセクシーダンス？を躍らせていたのは一匹のアリだった。

悪いアリだ。

今でも長谷川君の前で

「ぞーさん、ぞーさん、おーはながあ……………」
と歌うと、彼は顔を真っ赤にして抗議する。

因みに彼は相変わらずのジャージ少年だ。

だが、俺のそばでは必ず腰に手を当てている。

威張っているのではないが。

（後書き）

予想通りの展開、失礼しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6864a/>

パオーン

2010年10月20日00時00分発行